

# 新生会第一病院 2025プラン

平成 31年 1月 策定

【新生会第一病院の基本情報】

医療機関名：新生会第一病院

開設主体：医療法人

所在地：名古屋市天白区高宮町1302

許可病床数：144床

(病床の種別)

一般病棟 48床 (うち地域包括ケア病床21床)

療養病棟 96床

(病床機能別)

急性期医療 48床

長期療養 96床

稼働病床数：144床

(病床の種別)

一般病棟 48床 (うち地域包括ケア病床21床)

療養病棟 96床

(病床機能別)

急性期医療 48床

長期療養 96床

診療科目：内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病・内分泌内科、外科、血管外科、整形外科、  
リウマチ科、リハビリテーション科

職員数：

- ・ 医師 10.7名
- ・ 看護職員 109.5名
- ・ 看護補助者 29.6名
- ・ 専門職 48.0名
- ・ 事務職員 28.6名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

○ 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。

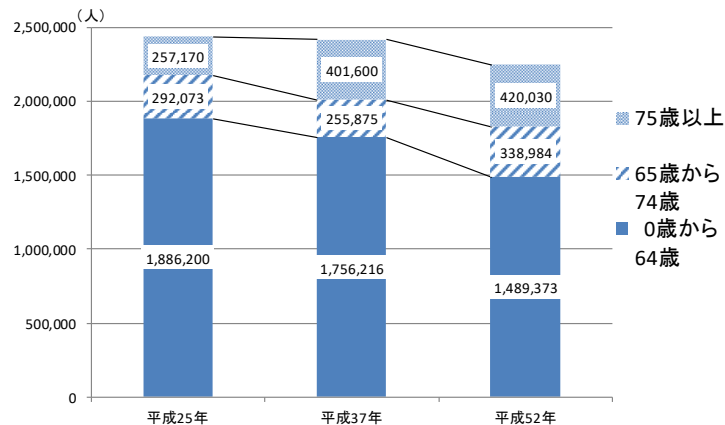
○ 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

※ ( ) は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



(医療資源等の状況)

○ 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。

○ DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。

○ 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成 28 年 3 月現在、圏域内（18 病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・総合周産期特定集中治療室管理料（MFICU）・ハイケアユニット入院医療管理料（HCU）・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の届出がされています。
- 平成 25 年度（2013 年度）NDB データに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にあります。脳卒中ケアユニット入院医療管理料（SCU）については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は 0% であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積 (km <sup>2</sup> )	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は 9 割程度と非常に高い水準にあります。また、他の 2 次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

<平成 25 年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
		88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

- ・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が10(人／日)未満となる数値は公表しないこととされており、「\*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

<平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162	
	20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289	
	41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

## ② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

### ③ 自施設の現状

#### ・自施設の理念、基本方針等

##### 新生会第一病院の理念・基本方針

###### (理念)

新生会第一病院は、地域が必要としている医療と、腎臓病・透析療法の専門的医療を提供し、人々から信頼される「アットホームな病院」をめざします。

###### (基本方針)

1. 私たちは、患者さまの権利を尊重し、生命と人生を大切にし、患者さまに満足していただける医療の実践をめざします。
2. 私たちは、自らの成長をとおして、医療の質の向上をめざします。
3. 私たちは、保健、医療、介護、福祉機関相互の連携をはかり、地域に開かれた病院づくりをめざします。

#### ・自施設の診療実績（届出入院基本料、平均在院日数、病床稼働率、等）

##### 届出入院基本料

一般病棟入院基本料（急性期一般入院料5）

療養病棟入院基本料1

地域包括ケア入院医療管理料2（一般病棟内21床）

##### 平均在院日数

17.2日（2018年10月～2018年12月）

##### 病床稼働率

67.6%（2018年5月～2018年12月）

##### 在宅復帰率

地域包括ケア病床 87.5%（2018年7月～2018年12月）

療養病床 80.0%（2018年7月～2018年12月）

#### ・自施設の職員数

医師	10.7人	臨床検査技師	4.0人
看護師	90.9人	臨床工学技士	16.0人
准看護師	18.6人	相談員	4.0人
看護補助者	29.6人	うち社会福祉士	4.0人
うち介護福祉士	1.0人	理学療法士	8.0人
薬剤師	5.0人	作業療法士	4.0人
管理栄養士	6.0人	言語聴覚士	2.0人
診療放射線技師	3.0人	事務職員	28.6人

#### ・自施設の特徴

高齢化する透析患者への充実した透析医療を提供するとともに、急性期病院並びに地域開業医、介護施設との連携を図り、天白・瑞穂地域の地域包括ケアシステムの一翼を担う

#### ・自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）

糖尿病・内分泌内科での診療を通じ、糖尿病性腎症から透析への移行を抑える

急性期病院・地域開業医・介護施設をつなぐ地域連携機能を強化し在宅復帰を支援する病院としての役割を担う

#### ・他機関との連携等

地域連携室を設け、急性期病院と連携し、必要に応じて紹介を行い、患者に対して最適

な医療の提供に努める。

③ 自施設の課題

- ・平成29年病床機能報告による2020年の天白区の状況について、天白区の病床数は全体で955床であるが回復期病床は全体の6.5%のみであり不足していると考えます。そのため、当院において、地域に必要とされる回復期機能の病床を整え、在宅復帰を支援する役割を担う必要があるのではないかと考えています。

[平成29年度病床機能報告 天白区]

施設名	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
東樹会病院	90	0	0	0	90
並木病院	212	0	0	0	212
八事病院	60	0	0	60	0
名古屋記念病院	464	156	308	0	0
あいち診療所野並	2	0	0	2	0
ルマルレディースCL	19	0	19	0	0
伊藤整形外科	19	0	19	0	0
はっとり耳鼻咽喉科	4	0	4	0	0
おにたけ整形外科	19	0	0	0	19
鈴木眼科医院	14	0	14	0	0
一つ山CL	19	0	0	0	19
宮田胃腸科外科	19	0	19	0	0
青木内科	14	0	0	0	14
合計	955	156	383	62	354

[平成30年度病床機能報告]

施設名	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
新生会第一病院	144	0	48	0	96



【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 自院における医療機能と地域における役割が、急性期後の患者の在宅復帰の促進を担う位置づけにあると考えている。
- ・ 地域における回復期機能の一翼を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 病床機能報告により天白区の回復期の病床の数は将来的に不足するものと考え、当院において回復期病床を整備することにより、地域における回復期病床不足を補完し、在宅への復帰促進を担うことが当院の持つべき病床機能と考えている。

③ その他見直すべき点

- ・ 特になし

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0床	→	0床
急性期	48床		48床
回復期	0床		48床
慢性期	96床		48床
(合計)	144床		144床

<(病棟機能の変更がある場合) 具体的な方針及び整備計画>

- ・地域に不足している回復期機能を有する病棟への転換への必要性を検討

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2018年度	○新病院移転(5月)  ○経営の安定化に向けた体制作り	○入院患者数、透析患者数の目標数達成の確認	<p>集中的な検討を 2年間程度で 促進</p> <p>第7期 介護 保険 事業 計画</p> <p>第7次 医療 計画</p> <p>第8期 介護 保険 事業 計画</p>
2019～2020 年度	○近隣医療機関との地域連携強化  ○経営の安定化に向けた体制強化	○入院患者数、透析患者数の安定確保の状況確認	
2021～2023 年度	○地域に求められる医療機能の再考  ○回復期機能を有する病棟への転換をした場合での医師をはじめとする医療従事者の必要人員を確保するための採用計画の作成および必要な設備等の整備の検討		

② 診療科の見直しについて

現状は見直しを検討していない

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率90%以上を目標

経営に関する項目\*

【4. その他】

特になし